

「18歳を市民に」

高生研



第64回全国大会 2026 東京大会

会期・会場 **2026年**
8月8日(土)～10日(月)
成城大学

大会テーマ 声にならない叫びが教育をつなぎとめる

私たちはラベリングやカテゴライズをすることで安心を手に入れるかわりに、人とかわる機会を失い、人の傷つきに気づかなくなってしまう。そんな日常をともに乗り越え、教育について一緒に考えてみませんか。

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
8月 8日 (土)		受付 10:00～13:00 プレ企画 10:30～12:00				全体会 13:00～17:00			休憩	交流会 18:00～20:00		
9日 (日)		一般分科会 9:00～12:30		屋食休憩 12:30～ 13:30		一般分科会 13:30～17:00			休憩	17:30～受付 大交流会 17:45～20:00		
10日 (月)		問題別分科会 9:00～12:00	別れの つどい 12:10～ 12:50	屋食休憩 12:50～ 13:30		総会 13:30～15:30						

■ 12:30～12:45 運営担当者打合せ

プレ企画 8月8日(土) 10:30～12:00

「インプロワークショップー即興劇で交流しようー」 鎌田 麻衣子(芸術文化観光専門職大学 講師)

インプロとは何もないところから相手と一緒にシーンやストーリーを生み出す演劇です。相手の反応に回答しながらその場で生み出される表現を楽しみましょう！

全体会 (開会行事・基調討論 8月8日(土) 13:00～17:00)

高生研 2026 東京大会 基調発題

引き裂かれた場所から始める 「私」を束ねないで 河上 馨

「私」たちは常に引き裂かれている。制度の求める「正しさ」と、誰にも束ねられない「生の熱量」との間で。生徒、教師、保護者。人は標本箱の昆虫のように一面的に測れるものではない。生徒「ひかり」との出会い、自らの過去の傷との共鳴、そして母との対話。共に傷つき再生しようとする過程で見た、剥き出しの人間が震えながら触れ合う形。その裂け目にこそ宿る教育の逃げ場のない豊かさを、演劇実践を通して叫びたい。

主催：全国高校生活指導研究協議会

<一般分科会 8月9日(日) 9:00~12:30>

【午前の部】

1 【学年】 学年主任を務めた2年間の軌跡 山野 賢治(大阪)

3年間の担任生活を終えて間髪を入れずに挑んだ学年主任。「前の3年間よりも充実した学年を創ろう」と理想を掲げて臨んだが、いざ始まると「現実」に直面して悩んでばかりだった2年間だった。5年経って冷静にふりかえられるようになった今、学年主任をした意味を参加者と考えてみたい。

2 【授業】 生徒の意思表明を導く-なぜ?が駆動する授業- 小嶋 裕人(茨城)

中高一貫校で中学1年から高校1年まで継続して授業を担当した学年の「公共」の授業実践を報告する。本授業では、生徒が社会問題に対して自分なりの意見を表明することを目標とし、プリントや試験を工夫して授業を設計した。しかし、設定した社会問題に関する「問い」が、生徒の内発的な疑問を十分に喚起できたかには課題が残る。分科会では、「生徒が自ら考えたくなる問い」とはどのようなものかについて、議論を深めたい。

3◎[HR] 「整えない」からできたこと・できなかったこと 佐々木咲希(東京)

「毅然と」「嫌われることも恐れずに」「生徒に課題をつきつける」「やりきる、やらせきる」を念頭に、整えること重視でやってきた教員生活。その指導法を見直し、整えることは一旦脇において、生徒を取り巻く環境・抱えている思いを大切にしたいと思い、挑んだ3年間の担任生活。自分自身が大きく変化させられた生徒との関係を中心に報告する。生徒の本当の「声」はどうしたら聴けるのか、じっくり考え合える場にしたい。

<一般分科会 8月9日(日) 9:00~12:30、13:30~17:00>

【午前・午後の部】

※午前のみ、午後のみ参加も可能

4◎[HR] 渡部 翔子(埼玉)

【午前の部】 自分と他者への無関心を超える (文化祭と振り返りの話し合いを中心に)

夜間定時制二回り目。新入生13人は殆どが不登校経験者。個々の抱える状況が深刻化し、以前の生徒にはあった「今までの分も取り戻して、誰かと繋がり、楽しい高校生活を送りたい」という熱が感じられない。渡部は「信頼に足る他者や自分自身と出会わせたい」と、文化祭に力を入れるが、他人事のように考え無責任に休んでしまう生徒も複数出る。文化祭後のLHRでリョウの怒りが爆発しみんなの本音を引き出す話し合いとなる

【午後の部】 互いの声を聴き合う (サークル対話を中心に)

2学期半ばになってやっと日本に戻ったハムザが登校し始めると、同じパキスタン人との会話が増え、「パキスタン人うるさい」とリョウが渡部に訴えてきた。これは、個別対応ではなく、全体に開いたほうがいいと考え、その日のLHRで「今、HRで気になることを言ったり、聴き合ったりしてみようよ」と「サークル対話」に挑戦する。自分を開示しながら本音で話す生徒も出てきた。生徒たちは他者と出会うことができたのか?

<一般分科会 8月9日(日) 13:30~17:00>

【午後の部】

5 【授業】 授業で創る居場所と出番 濱野 優貴(滋賀)

本年度新設の地域デザインコースにおける実践報告である。多様な背景を持つ生徒に対し、1年次から作業療法士の助言を得たSSTを実施し、自己理解と受援力を育む「居場所」を構築している。その土台の上にボランティア等の社会参画による「出番」を設け、自己有用感を醸成する。心理的安全性から地域プロジェクトへと繋げるこの二段構えの支援が、生徒の主体的な変容を促すプロセスを、これまでの実践を交えて報告する。

6 [HR] 傷つき合い、千紗とあゆんだ3年間 小田 真理(大阪)

中1の千紗は友達をうまくつぐれない、目立ちたがり屋。母との関係に一喜一憂し、男子との距離が近く、周囲の神経を逆なですることも。ある日、千紗は周囲にからかわれ休みがちに。「からかいを注意しない担任には対応してほしくない」と私は拒絶される。千紗の傷つきや生きづらさを、どう受け止めるべきだったのか。この経験が忘れられず、未だに自信を持って担任を持つことができない私。この報告を契機に、前に進みたい。

7◎[HR・校則改革] 学校に人が集まることの意味を問う 平子 裕(北海道)

初担任の私が約20名の生徒とともに、3年間をかけて校則改革に取り組んだ自治活動を報告したい。1年目、校則改革に向け、生徒が意見を言って良い生徒総会を目指した。2年目、生徒の主体性を支える教師の責任として手書きの学級通信を発行し続けた。意見には理由をしっかりと考えること、自分だけの要望にとどめないことを書いた。3年目、要求実現に向け、私と生徒たちは各自の持ち場で、容易に合意を目指さない公共空間を作るために奮闘した。

<一般分科会・問題別分科会ともに◎はオンライン併用分科会>

交流会 8月8日(土) 18:00~20:00

- 1: 小森陽一氏と平和を語り合おう 講師: 小森陽一 (和光学園理事長・全国九条の会事務局長)
- 2: 基調を深める
- 3: フリースクール交流会
- 4: 対等な地平をつくる実践としての哲学対話
講師: 堀越耀介 (東京大学共生のための国際哲学研究センター)
- 5: それでも「教師」を続けるために
- 6: 成城学園歴史散歩 講師: 岩田一正 (成城大学教授) 他

<https://kouseiken.jp/Taikai/wp-content/uploads/2026/05/2026kou-ryukaiPR.pdf>



交流会 PR 一覧は上記リンクから

大交流会 8月9日(日) 17時半受付 17:45開会

全国各地から参加される皆さんが交流できるような大交流会の開催を予定しています。そこにいる人たち同士で自然と会話ができるゆるやかな時間だけでなく普段は話をしないような方々とも話ができるようゲーム性を取り入れた進行もお楽しみください。ヴァイオリン演奏付きです。多くの方々の参加をお待ちしております。

会場 7号館地下学生ラウンジ **参加費** 食事、飲み物代として 一般 3500円 学生 3000円
当日会場受付でお支払いください。

<問題別分科会 8月10日(月) 9:00~12:00>

1 生徒の呼びかけから、もう一つの文化を拓く

但馬 徹哉(東京)

総合的な探究の時間の班決めで、A男が孤立。C男から「先生が班決めを自由にして、方針を示さないせいで混乱した」と批判を受けた私は、C男を含めた複数の生徒たちと何度も語り合い、教室に潜む排除の空気に抗うための働きかけを模索した。しかし実践は、教員間の組織的調整の壁に阻まれ中断。スタンダード主義が支配する学校現場で、いかに生徒と「新たな秩序を共に創る主役」になれるか。実践の軌跡と私の問題意識を報告する。

2◎ 生活指導と「心の傷」、トラウマインフォームドケアをめぐる

—西之園実践と渡部実践をもとに—

森 俊二(埼玉)、勝又あずさ(成城大)、城塚 俊彦(大阪)

今、虐待やいじめなど「心の傷」を抱え、自他を攻撃したり、他者と関係をうまく結べない子ども・青年が増えている。25年基調の西之園実践と渡部実践には「心の傷」を抱えたSやHがいる。これらを深めるためACE(逆境的小児体験)と複雑性PTSDを抱える子どもたちをめぐるトラウマインフォームドケア(TIC)について考えたい。そして、渡部実践を元に、生活指導をめぐる、ケアと対話、関係性と認識に関わり、実践に即して解明したい。本提起は、25年熊本大会(中止となった)問題別分科会のバージョンアップの提起である。

3◎ 実践の”教育的”な意義を集団的に描き出すとは

<提起>前田 浪江 小川 京子

<オンライン提起>Stephen Heimans Michelle Ocriciano 相良 武紀

懸命に取り組む実践のその”教育的な”意義を認識することは、困難な現実に対するその人ならではの実践を模索する上で不可欠です。しかし、これを個人で行うのは難しく、では集団ですれば必ずうまくいく話でもないところに、避けては通れない大事な研究課題があります。2025年全国大会で議論した渡部実践の教育的な意義を、この研究課題について概念的に深めてきたオーストラリアの研究者と、参加者とともに深めることを試みます。

4◎ 微力だけど無力じゃない 一生徒の学校運営への参画を考える—

酒田 孝(青森)

三者協議会や要望書の提出など原則的に生徒の意見表明を行い続ける中で、生徒総会や中央委員会で発言が途切れなく続くなど、最近明らかに生徒の様子が変化してきた。また、教務から翌年の年間計画案が生徒会に正式に下されるようになった。「生徒が学校運営に参画する」とは、具体的にどのようなことなのかをレポートする。どのようにしてこのような変化が起きたのか、討論の中でその原因を分析していきたい。

<高生研大会会場周辺アクセス>

成城大学のアクセスはこちら✓
<https://www.seijo.ac.jp/access/>



(新宿より小田急線急行「成城学園前」駅。徒歩4分)
8日(土)は3号館、9日(日)・10日(月)は7号館

<参加案内>

参加費	全日程(3日)参加	4,000円
	2日参加	3,000円
	1日参加	2,000円
	高生研会員(※会員会費還元により1~3日参加一律)	2,000円
	学生・保護者	1,000円(ただし大会実行委員として参加した場合は無料)
	オンライン参加※	1,000円

※オンライン参加の場合、紀要はPDFファイルをダウンロードして参加して頂きます。
問題別分科会は限定的です。

申込み方法 「高生研全国大会2026東京大会参加申込フォーム」
(<https://kouseiken.jp/Taikai/tokyo2026taikai-entryfoam/>)
からお願いします。右記QRコードから簡単にアクセスできます。

対面参加のフォーム申込み締切 8月5日 ※1
オンライン参加申込1次(OL開催希望)の申込み締切 6月30日 ※2
オンライン参加申込2次最終の申込み締切 8月5日

※1 対面参加について、当日会場での参加申込も可能ですが、交流会や大交流会などの申込の締切があるものもあります。可能な限り申込フォームからお願いします。

※2 この段階で、オンライン併用の記載がない分科会から午前1つ、午後1つを確定させます。

宿泊 各自でお取り下さい。宿泊施設の予約はお早めをお願いします。
小田急線沿線、特に町田方面がおすすめです。

保育 対象4歳以上 1日800円(保険料を含む) ※おやつ・昼食はご持参ください。
申込はの申込みフォーム内リンク、保育申込フォームにて 申込締め切り6月30日

<大会に関する最新の情報・問い合わせ>

「高生研大会ブローガー18歳を市民にー」

<https://kouseiken.jp/Taikai/>

中西治(高生研大会グループチーフ)

e-mail: taikai-chief@kouseiken.jp

